

臨床検査科

臨床検査科技師長 溝口 亜由美

1 部門目標

- ・学会・研修会への参加率向上と、資格・認定資格取得の向上
- ・院内研修への参加率向上

2 業務体制・スタッフ

臨床検査科は、採血、検体検査（生化学・免疫・血清・血液・凝固・尿一般・輸血・微生物）、生理機能検査、耳鼻科関連検査、病理・細胞診検査の各部門を検査技師 22 名、会計年度検査技師 3 名と委託職員(BML)6 名の合計 31 名（1 名育児休暇のため実質 30 名）のスタッフで運営し、日直・宿直・夜間勤務については常勤職員 1 名と委託職員 1 名の計 2 名で対応している。（委託会社は生化学・免疫・血清検査を実施）

3 業務実績

検査総件数は、昨年度 119.3 万件に対し、今年度は 129.8 万件と微増であった。昨年度と比較した内訳は、血液検査部門 98%・258,248 件、採血部門 100%・26,502 件、一般検査部門 101%・130,469 件、輸血検査部門 100%・12,516 件、微生物検査部門 103%・30,351 件、病理検査部門 114%・12,035 件、生化学・免疫検査部門 109%・771,053 件、外注検査 113%・39,833 件、生理検査部門は 102%・12,731 件、耳鼻科検査部門 103%・3,368 件であった。微生物検査においてはコロナ関連検査が今年度も収益増となっている。

院内各種委員会等にも積極的に参加し、主な委員会としては、輸血療法委員会（副委員長）、感染防止対策委員会、医療安全管理対策委員（セーフティーマネージャー）、SCT 委員会、ICT 委員会(委員長)、NST 委員会などチーム医療に参加し、CPC を開催するにあたり資料作りなど日常の業務と平行して励行し、病院運営に寄与している。

臨地実習生に関しては 4 月から 8 月かけて 3 名の実習生の臨地実習指導を行った。

4 1 年間の総括

部門目標である「学会・研修会への参加率向上と、資格・認定資格取得の向上」は、合計 23 人が 226 の学会・研修会に参加、1 人平均 9.8（昨年度 11.2）回の参加となった。タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会は 25 名中 20 名が修了した。

各分野で認定資格の取得に励み、より専門的な知識や技術の研鑽に努めている。

昨年に続き、院内の SARS-CoV-2 検査（遺伝子増幅法）は 24 時間体制で実施した。

新たな業務として、発熱外来での検体採取を開始し、タスク・シフト/シェアに参画することで病院運営に貢献できた。

また、脳神経外科手術での術中モニタリング（MEP、SEP、ABR）を実施するための準備を開始した。

5 今後の目標

新病院準備に向け、高度な診療を支えていくためには更なる専門的な知識や技術が求められる。今後も学会・研修会へ意欲的に参加し、自己研鑽に努め、技術・情報の収集・学会・研究会での発表・投稿を積極的におこなう機会を設け、医師や看護師の業務軽減に繋がる改善や、医療安全管理などのチーム医療に積極的に取り組み、病院運営に貢献していきたい。

臨床検査科令和4年度学会発表・論文・著書等

【令和4年度】

- 1) 抗菌薬適性使用支援チーム (AST) と診断支援 (DS)
静野健一
検査と技術 (2022年4月:発行)
- 2) FCM を用いた IgG サブクラス測定における胎児新生児溶血性疾患の重症度評価
丹麻美
第70回日本・輸血細胞治療学会学術総会
- 3) 千葉県内主要機関における血液製剤管理業務アンケート調査
丹麻美
第70回日本・輸血細胞治療学会学術総会
- 4) 臨床微生物検査のコストと診療報酬～市中病院～
静野健一
石川県臨床検査技師会生涯教育セミナー
- 5) 検体の採取法と保存・輸送法
静野健一
日本臨床検査専門学院 第47期微生物学コース
- 6) SARS-CoV-2 スクリーニング検査陽性時の検査室対応
静野健一
第60回全国自治体病院学会
- 7) 血流感染症における diagnostic stewardship-中小病院での取り組み-
静野健一
日臨技北日本支部 微生物部門研修会
- 8) 臨床微生物検査を基礎から学び直す
「検体採取・輸送・保存方法および POCT 検査法ガイド」
静野健一
日臨技関東甲信支部・首都圏支部研修会
- 9) めざせ”達人” 知っておくべき豆知識 Enterococcus 属菌
静野健一
第27回関東甲信地区マイクロスキャン研究会